

本行徳石垣場・東浜地区の土地利用の方向性

<特性と課題>

- 地域の歴史
 - ・埋没している行徳の歴史性(河岸場や塩焼きの地として川と海との関わりの中で繁栄したまち)を再認識し、地域個性の発揮を目指した新たな施策の展開
- 地域の自然
 - ・河川によって隣接地域と分断されている地域であることを踏まえた他地域との連携強化、自立的なまちづくり
 - ・地域全体が地盤脆弱な江戸川デルタ及び埋立地上にあることを踏まえた防災施策の展開
 - ・新市街地整備の過程の中で消失した地域の緑地空間や水路の再生・修復・創出
- 広域的位置
 - ・東京都心との距離的近接性や広域交通基盤(鉄道、高速道路、R357等)の活用した高次都市機能等の立地誘導、地域相互の交流・連携、施設間ネットワークの視点からの施策の展開
- 市街地形成
 - ・一つの自立的な地域としての視点からのあらたな計画づくり
 - ・整備済みの住区レベルの基盤施設との連携を考慮した行徳地域全体を対象とする基盤施設整備
 - ・旧集落地や近郊緑地保全地区を除くと緑の少ない地域であることを踏まえた緑化施策の展開
 - ・地域としての良好な景観形成の誘導
- 住民意識
 - ・定住を踏まえた、住民の交流・協働施策の展開
 - ・「行徳都民」と呼ばれる住民が、地元を向けるような施策の展開
- 石垣場・東浜地区
 - ・上位計画、関連計画(埋立計画白紙撤回前)も考慮した施策の展開
 - 都市計画 : 都市施設(下水道終末処理場)の計画決定地区
 - 総合計画 : 新産業創造ゾーンと居住ゾーンの重複区域
 - 地域防災計画 : 一部が広域避難地
 - その他 : 妙典架橋の構想
 - 総合・運動公園整備構想
 - 高規格堤防の整備構想
 - ・立地特性・地区特性を考慮した活用方策が望まれる。
 - 広大な一団地の低・未利用地
 - 広域道路網と鉄道に接した地区
 - 北側は低層を主とした住宅市街地
 - ・「地元(市、行徳、地主・隣接地)還元」という視点での施策の展開

<方向性>

- ・水(川と海、そして水路)と緑あふれるまちづくり
- ・江戸川沿川地域や対岸地域(高谷・原木)との連携を考慮したまちづくり
- ・災害発生時に対応が可能な防災まちづくり
- ・まちづくりと一体的な洪水対応施設の整備
- ・広域からの利用に供する機能配置の誘導
- ・土地の規模・形態を活かした空間活用
- ・行徳地域の住民が誇りに思い、地域全体の利用に供するシンボリックな空間の創出
- ・地域全体の楽しみ場、憩いの場の創出
- ・新しい形態での職住共存のまちづくり
- ・緩衝機能空間の確保
(県が処理場建設についての検討に着手しており、建設される場合も、当該空間の確保が必要となる)
- ・居住機能との調和ある空間利用
- ・市民との協働

<基本的な方針>

- 広域的な人と水と緑のネットワーク拠点をつくる
- 地域コミュニティを育てる
- 地域の防災機能を確保する
- 地域の個性をつくりだす
- 緩衝空間を確保する
- 市民と協働を進める

楽しく憩える緑の生活拠点 石垣場・東浜地区のゾーニング

